

## 今回の豪雨で被災された新所地区の井川岑生さんとそのご家族。その貴重な体験を井川さんに話していただきました。



井川 岑生さん（新所）

数日前からの降り続く雨で、危険な状態であると考えていました。

我家は、畑を含め3段作りで、その下にはJR豊肥線の線路が走っており、「畑の土砂が線路に覆いかぶさっていないか」「阿蘇から熊本市へ向かう一番列車に支障はないか」と、夜中の2時から家の周辺を見回っていました。

4時には長男が消防団員として家をあとにし、5時から毎朝の日課である風呂掃除をし、5時半からはテレビを見ながら妻と天気予報を確認していました。

5時半過ぎには、長男の嫁と2人の孫たちも起きてきました。孫たちは、普通休みの日であれば8時ぐらいいまで寝ているのですが、当日は学校のため朝早くからテレビの周りに集まってきました。

6時には丸野俊行さん宅の裏が崩壊したようで、その現場にいた長男から「木のこすれる様な音がする」「新所公民館の方へ今すぐ逃げろ」と、妻の携帯に連絡がありました。そのあとすぐ「ドーン」「バリバリ」と、ものすごい音がしました。「これは何か大変なことが起きた」と、土砂降

りの中全員で外に出てみると、村道の上にある柳川さん宅の倉庫が、裏のブロック塀にぶつかっていました。「上の方で土砂崩れが起きた」と考え、すぐさま、役場に連絡を入れました。

妻は「すぐ逃げなければ」と、嫁と孫2人を連れて逃げました。上の村道は先ほどの影響で通れず、村道上の郷アツエさん宅の方へも上からの濁流で通れませんでした。妻たちは、我家の前を通り右隣の片島カツエさん宅の方へ逃げました。間には水路がありましたが高さでしたので「何とか耐えられる」と、妻は水路に入り孫を一人ずつ担いで反対側へ渡しました。途中、2軒の家に「危険だ」と声を掛け、

義弟の片島幸康さん宅で、びしょ濡れだった4人は着替えをさせてもらいました。片島さん宅では、「何事ですか」とその緊迫した様子に驚かれ、そのまま旧立野小学校の体育館に避難しました。

私は、家に残り「早よ逃げ」「早よ逃げ」と避難する妻や

孫たちの様子を見守りながら、「この第一波程度なら家の修理もできる」と考えていました。その矢先、第二波が「ゴーツ」と押し寄せてきました。車や家が流され、この第二波に妻や孫たちが巻き込まれたのではないかと、一時、頭が真っ白になりました。すぐさま義弟の片島幸康さんに「家が流されたぞ」「4人がおらん」と携帯に連絡を入れたところ、逆に妻たちは「今、ここにいる」と連絡を受け、腰の抜けるような思いでした。

今思えば、5時ごろの雨の降り方は尋常ではなかったし、避難に関してもどこが崩れているかわからない状況で、妻たちが上の方へ逃げなくて幸いでした。

私は立野小学校の統合に関して、いろいろ言ってきましたが、避難所として体育館だけでなく、犬を連れて方や臨時保育所などのために教室や避難者の食事を提供するために家庭科室などが使用できたことも幸いでした。

今回の災害で、286世帯



土砂で押しつぶされた井川さんの自宅

が避難しましたが、行政もよく対応していただきました。このような災害は何十年に一度のことです。この災害を検証し、今後の教訓にしなければなりません。どこが崩れてもおかしくないこの地域で、いかに危険を予知するかが大切だと思います。行政は今後の対応もいろいろ大変でしょうが、どうぞよろしく願っています。